



すべての瞬間を楽しんで生きることをみんなで支えて叶えたい

横浜こどもホスピス プロジェクト

Vol. 3
Aug
2019

一人の看護師の思いからすべてが始まった！

NPO 法人横浜こどもホスピスプロジェクト 代表理事 田川 尚登

いつもご支援ありがとうございます。
昨年に引き続き、かながわボランタリー活動推進基金 21 と独立行政法人福祉医療機構からの助成を受け、今年度の事業が始まりました。

今年も施設建設・運営のための啓発活動、並びにこどもホスピスで行う小児緩和ケアの普及を目指す研修や人材育成プログラムを実施します。人材育成プログラムは横浜だけではなく、札幌、福岡、仙台などでも開催する予定です。また、(一社) 北海道こどもホスピスプロジェクトと共に開催する第2回全国こどもホスピスサミット（7月14日、札幌市）や2020年2月の第2回世界こどもホスピスフォーラム in Yokohama を通じて、制度の狭間にいる子どもと家族についての支援を国内のこどもホスピス関係団体や医療、福祉、教育関係者と共に考えていきます。

私たちの活動のきっかけとなったのは、元看護師の石川好枝様からの遺贈でした。石川様の思いを我々の思いと重ね合わせ、こどもホスピス開設に向けた活動に繋げています。そこから蔵本麗子様、片岡順子様、露木よね子様からの遺贈や A ご夫妻ほか多くの支援者の願いが一本の線に繋がっています。それは2月に開催した第1回世界こどもホスピスフォーラムにも発展し、イギリス、オランダ、国際小児緩和ケアネットワークの代表者や全国から集まった参加者の皆様の熱意から、国内外にこどもホスピスの普及を願う仲間たちが増えていっているのを実感します。まだ形は見えていませんが、こうして様々な方々の思いを受けて施設開設に向けた活動を続けていけるのは、私たちにとって大きな幸せです。多くの不安も勿論ありますが、素晴らしい方々と出逢いながら一步一歩前に進んでいることが実感できること

こそ、不安に勝る希望と前向きな気持ちに繋がっています。今年も大きな一歩が踏み出せるよう頑張れそうです！

治療方法のない病気が分かると主治医から言われるのは、「もうできることはありません。子どもと楽しい時間を作ることだけです」という言葉です。でも、親ならばあきらめる気持ちにはなれないものでしょう。病気のことで頭の整理もできません。こどもホスピスは、そうしたご家族に寄り添い楽しい時間を作るお手伝いをする施設ですが、わが国にはほとんどないです。病気になったのはうちの子ではない、と目を背けてはならない。そうした子どもや家族を社会で支えていくというのが小児緩和ケアの行き届いた先進国です。我が国も、家族や制度だけでは守りきれない子どもたちを社会で守っていく先進国でありたいと願っています。



こどもホスピス設立を願った
故石川好枝様



第1回世界こどもホスピスフォーラム



独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

「第1回世界こどもホスピスフォーラム in Yokohama」を開催しました

2019年2月11日、イギリス、オランダ、そして国際小児緩和ケアネットワーク (International Children's Palliative Care Network) から代表者を招聘し、第1回世界こどもホスピスフォーラム in Yokohama (会場: はまぎんホールヴィアマーレ) を開催しました。

第1部は、イギリス・Francis house、オランダ・Kinderhospice Binnenveld、日本の淀川キリスト教病院こどもホスピス病棟の国別紹介と、国際小児緩和ケアネットワークの取り組みについてのプレゼンテーション。第2部はさらに、ドイツのKinder-und-jugenhospiz Regenbogenland の利用経験のあるご家族・菊地様も交えてのパネルディスカッション。会場からの質問などもたくさんあり、充実した1日でした。

各国で制度の違いやこどもホスピスの成り立ちなど異なる部分はありますが、共通していたのはこどもホスピスが看取る場所ではなく生きる場所であり、子どもの意思を最大限尊重していることでした。横浜もそのような場所を作り上げていこうと再確認しました。

来賓の皆様とは深い絆が生まれ、今後の交流も続けていくこと、今後の開設準備のコンサルテーションや人材の研修などの面での協力などを約束してくださいました。見送りの時には涙ぐむくらいの親密な関係を築くことができました。

開会挨拶

第1回世界こどもホスピスフォーラム in 横浜が、ここ神奈川で開催されましたことを心より嬉しく思います。

本日お集りの方々は、お子様やご家族が小児がんや難病等と闘っている方、小児医療に携わっている方など、様々な思いを抱かれて参加されていると承知します。皆様方の日頃のご労苦に心から敬意を表します。

フォーラムでイギリスやオランダでの取組みを拝聴し、こどもホスピスが、コミュニティの中で子どもたちとどう向き合うかという視点で育ってきていることがわかりました。

こどもホスピスを、「いのちが輝く」かたちにするためには、コミュニティが充実して、みんなが笑いあつていけるようにすることが、目指すべき一つのゴールではないかと感じました。

日本においても、今回のフォーラムを機に、こどもホスピスの取組みの輪が、コミュニティの中でさらに大きく広がることを期待しています。

県では、超高齢化に向き合うために、未病改善の取組みを進めており、その実現へ鍵を握るのは、「コミュニティ」と「笑い」であると考えています。

現在、県は、NPO 法人横浜こどもホスピスプロジェクトとの協働により、「横浜こどもホスピス設立運営事業」を実施しています。これからも、皆さんとともに、小児がん等の病気と闘っている方々に対する支援を行ってまいります。



世界こどもホスピスフォーラム in Yokohama



黒岩祐治 神奈川県知事

淀川キリスト教病院 副院長 鍋谷まこと



今回世界こどもホスピスフォーラムに日本の代表として参加する機会をいただいた。これはある意味我が国におけるこどもホスピス元年に位置づけられるような素晴らしい内容でした。こどもホスピス発祥の地、英国からの参加、国際小児緩和ケアネットワークの代表者をはじめ、オランダからの参加やドイツから届いたメッセージ等、日本でのこどもホスピスの普及に向けて、具体的なことから概念的なことまで、幅広い話題が語られた。私も、今年で7年になるアジアでは初となるこどもホスピス病棟の取り組みを紹介したが、全国にこの動きがさらに広がっていくことを心から祈っている次第です。



イギリス・フランシスハウス
代表 デビッド・アイルランド
ケア・ディレクター ジリアン・ベヴァン



日本滞在はすでに昔のように感じますが、まだ温かな思い出が残っています。「第二の我が家」という環境で小児緩和ケアを、若い人々とご両親が望むケアを、というのがこどもホスピスの理念ですが、同じ志を持ち情熱的に取り組んでいる方々と築いた友情をとても大切に感じています。

フォーラムに参加できることは大変光栄なことでした。設立 28 年となるフランシスハウスですが、コンサルタントや政府関係者とは、1990 年にしてきたような議論が今も繰り返されます。今回のフォーラムでも取り上げられた課題でもありますので、ここに記します。

1. もし残された命が短いのなら、機械や数値の確認に出入りする看護師に囲まれ集中治療室で過ごすよりも、楽しい経験や刺激を受けながら（状態が許す範囲で）できる限り充実した時間を過ごし、子どもが旅立った後にも家族が共有できるような楽しい思い出を作る方が（私たちの経験では、よい思い出はご両親が立ち直るに大きな支えとなるのです）良いのではないか。
2. 子どもたち（特に乳児や幼児）は大人と同じように痛みを感じるのだろうか。どのような鎮痛剤が必要なのか。
3. 最後の日々を過ごすのはホスピス環境が良いのか。在宅での支援が必要なのか、家庭的なホスピス施設が必要なのか。
4. 資金は国費で賄われるべきか、寄付金に頼るのか、保険でカバーされるべきか。

このような議論はフランシスハウスも当局と続けていますが、日本でも同様のテーマが挙がっていました。違いは、フランシスハウスが今では小児緩和ケアの「専門家」として認知されていることでしょうか。諸外国からも小児緩和ケアの拠点とされ、こどもホスピス立ち上げに貢献させていただいている。

世界こどもホスピスフォーラムは素晴らしい、政治家、コンサルタント、医療従事者、学生などが大きな関心を持って参加されていたことはとても心温まるものでした。

ジル・ベヴァン（ケア・ディレクター）と私は、日本のこどもホスピス・小児緩和ケア普及への道のりに小さな役割をいただいたことを大変光栄に思い、今後も日本のご家族のためのこどもホスピス設立に向けて踏み出す皆様を見守っていきたいと思っています。

マハトマ・ガンジーは、こう言いました。“A nation’s greatness is measured by how it treats its weakest members. (国の偉大さは、最も弱い者のあつかい方でわかる)」

私たちは、命を制限する・命を脅かす病気を持つ若い人々全員にホスピスケアを提供するという挑戦に、日本が立ち向かい、できるだけ早く実現することを願っています。

フォーラム参加者の皆様のご多幸を祈っています。皆様のおもてなしは忘れません。

It now seems some time since our visit to Japan even so our memories are still warm. We value the friendships made with other like-minded people who are passionately committed to the children's hospice ethos of paediatric palliative care; in a 'home from home' environment. A place where care may be provided in the way that young people and parents wish. Francis House was proud to be included in the Forum, we have now been established for 28 years and yet we still have the same discussions with specialist consultants, and government that we were having back in 1990. Some of these discussions were repeated on our visit and we feel that it is worth airing them.

1. If life is short, should it be spent in intensive care surrounded by machines; with nurses constantly checking stats or is it better to live life as fully as possible (within the limitations of your condition) to be provided with pleasurable experiences and stimulation, whilst making good memories for parents to share after their child has died (in our experience these good memories are really helpful in helping parents cope with loss in the future).
2. Do children, especially babies and infants feel pain the same way that adults do, and what sort of pain relief should be prescribed?
3. Is the hospice environment the place to spend your last days or should people be supported to care at home or use homely hospice facilities?
4. Should hospice care be state funded, led by community giving or paid for through insurance?

Francis House continues to have these discussions with the authorities in Britain and we recognise the same themes during our time in Japan. The difference in Britain is that we are now recognised as 'experts' in paediatric palliative care. We are also regarded as a centre of excellence by other countries where we have assisted in the establishment of children's hospices.

The organisation of the World Children's Hospice Forum was excellent, and the interest shown by Politicians, Consultants, Clinical Staff and students who attended the Forum was really heartwarming.

Gill Bevin (Director of Care) and I both felt privileged to be a small part of the Japanese journey and will watch with interest as you take your first steps towards providing children's hospices for Japanese families.

Mahatma Ghandi said, “A nation's greatness is measured by how it treats its weakest members.” I hope that Japan will rise to the challenge of providing hospice care for every young person who has a life-limiting or life-threatening condition, and that you will achieve it as soon as possible. Every good wish to all who attended the Forum, your welcome and hospitality was memorable.

オランダ・Kinderhospice Binnenveld
代表 ウィルマ・ストーリング



オランダの子どもホスピスの成り立ち、特に私たちの施設についての講演依頼をいただいたとき、大変光栄に感じると同時に、私たちの経験を小児緩和ケアに関心のある方々、それもオランダ以外の国や文化の方々と共有できる機会をいただいたことをとても嬉しく思いました。参加した同僚と私は、世界子どもホスピスフォーラムとそこに集まった登壇者や参加者の熱意に感銘を受けました。イギリス、日本、オランダから子どもホスピス・小児緩和ケアの国別発表があり、地理的、経済的、文化的な違いから各国の子どもホスピスの成り立ちが異なることを興味深く拝聴しました。

しかし、さらに興味深かったのは人や国を動かす志です。国は違えど、子どもたちやご家族に必要なのはよい時間を過ごすことだという点は一致していました。余命が限られているような子どもとご家族にとって、生きる時間そのものが大切になります。それは、登壇者全員が述べていたことです。このことは、日本の小児緩和ケア発展の希望に繋がります。簡単ではないですが進むべき方向であり、共に生きていくために必要なことです。このようなフォーラムは、学びあい知識を共有する機会を提供するだけでなく、意志があれば成し遂げられるということを学ぶためにも重要です。

短い時間でしたが、子どもたちを支えることに関心と関わりがある多くの方々にお会いすることができました。どうぞ子どもたちとご家族のために活動してください。子どもたちとご家族は大きな喜びと素晴らしい時間を得るでしょう。それは、皆様も同じです。

The invitation from the Yokohama Children's Hospice Project to speak about the development of the children's hospice in the Netherlands and especially our hospice for the children Binnenveld in Barneveld, felt as a special honor and opportunity to share what we have learned with others interested in palliative care for the children. Others, in another nation and culture. My colleague and I were impressed by the organization of the World Children's Hospice Forum and the enthusiasm of the listeners and speakers. Different projects from different countries, England, Japan and the Netherlands gave a presentation of their hospice or palliative care for children. Interesting were the differences in the development of the hospices for the children, caused by the geographical, financial or cultural needs. But even more interesting was the motivation of each person and country. All of us saw the need of the children and their parents to live life as good as possible. Also when a child is terminally ill, life itself is important for the children and their families. And that's what all the speakers pronounced. It's that what gives hope for the future and the development of children's palliative care in Japan. It won't be an easy way, but it is a way to go, and a way of living with each other. Nearby and far away. Forums like this is important because it brings people together and give them the opportunity to learn and to share knowledge. It is also necessary to bring people together because it's a way to learn that great things are possible if you really want to. In a short time we saw many interested and involved people in giving care for the children. Please do this for the children and their families. Doing this for them, will bring great joy and a good time for them and their families. But also for yourselves.

国際小児緩和ケアネットワーク（ICPCN）
代表 ジュリア・ダウニング



「世界から託されたバトン～つなげよう日本の子どもたちのために！」をテーマとした第1回世界子どもホスピスフォーラムでの講演の機会をいただき、大変嬉しく思いました。フォーラムには、イギリスのFrancis House、オランダのBinnenveld Kinderhospice、ICPCN、そして日本の小児緩和ケアについて学ぼうと全国から参加者が集まりました。

フォーラムが目指したのは、子どもホスピス・小児緩和ケア先進国の経験から学び、この分野の理解促進に繋げること、様々な国と意見・情報交換の場を提供すること、日本の文化や制度にあった「子どもホスピス・小児緩和ケア」のあり方についてのヒントを得ること、そして命を脅かす病気の子どもや家族のQOL改善を支える小児緩和ケアを日本で普及させていく「きっかけ」となることでした。

横浜こどもホスピスプロジェクトは、こどもホスピス設立に向け募金活動を続けていますが、こうして日本にも小児緩和ケアを支える動きがあること、特に神奈川県や横浜市の理解があることを心強く感じました。日本の成人緩和ケア提供体制は国際評価レベル4という高い水準にありますが、小児緩和ケアについてはレベル2に留まっており、この差を是正していくことが重要です。ICPCNのビジョンは、命を制限する・命を脅かす病気を持つすべての子どもとその家族に途切れることのない継続的な小児緩和ケアを保証し、健康上の苦痛を軽減しQOLの向上を目指すことです。今後も、日本の子どもたちのための小児緩和ケアの普及に取り組む横浜こどもホスピスプロジェクトに協力していく所存です。

I was delighted to be invited to speak at the 1st World Children's Hospice Forum held in Yokohama on the 11th February 2019 with the theme of 'Children's palliative care: Receiving the torch from the World'. Organised by the Yokohama Children's Hospice Project the forum was attended by participants from across Japan and it gave them the opportunity to hear more about children's palliative care and to learn from speakers from Francis House Children's Hospice in the UK, Binnenveld Kinderhospice in the Netherlands and the International Children's Palliative Care Network (ICPCN), along with those from Japan itself.

The aim of the forum was to: raise awareness about children's hospice and children's palliative care from countries with advanced experience in this area; to provide an opportunity for different countries to exchange ideas and experiences; to obtain ideas on how Japan can develop children's hospice/children's palliative care which is adapted to Japanese culture, institutional system, etc.; and to make the symposium a "trigger" to promote children's palliative care in Japan, so all children with life-limiting conditions and their families can receive care and have enhanced quality of life.

As Yokohama Children's Hospice Project continue to raise funds to develop a children's hospice, it was encouraging to see the support for children's palliative care within Japan, and importantly to see the support from Kanagawa Prefecture and Yokohama City, and the acknowledgement that whilst Japan have reached 'level 4 – integration' for adult palliative care, they are only at level 2 for children's palliative care and it is important that we close that gap. At ICPCN we have a vision that "all children living with a life-limiting or life-threatening condition and their families, will have seamless access to palliative care in order to alleviate serious health-related suffering and enhance their quality of life" and we are committed to supporting the Yokohama Children's Hospice Project as they strive to improve access to palliative care for children in Japan.

TOKYO YAMATHON 2019

TOKYO YAMATHON は、3～4人で一組のチームを組み、12時間以内にJR山手線の全29駅を歩き切るというチャリティ・イベント。今年は、横浜こどもホスピスプロジェクトが支援先団体として選ばれ、参加費をすべて当団体に寄付していただきました。

5月11日、青空が広がる中、1000人を超える参加者の声援とともに賑やかにスタート。

主催者・参加者・ボランティア全員が一体となって楽しんで盛り上げているという感覚があり、会場は早朝から夜中まで物凄い熱気にあふれていきました！

団体ブースでは、活動紹介パネルやメッセージボードなどを設置し、多くの方にこどもホスピスの活動を知っていました。



TOKYO YAMATHON 2019に参加して

こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成講座1期修了生 柳沢 友美

「チームで東京ヤマソンを制覇しませんか?」という友人のことばに誘われ、「こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成講座」を受講したメンバーでハーフコースにエントリーをしました。

当日は抜けるような青空。出発地点でゼッケンをもらい、この日初登場の横浜こどもホスピスTシャツに着替えて開会式に参加。田川さんのスピーチに1100人を超える参加者の歓声が上がり、気持ちが高まります。

そしてスタート時刻。皆でハイタッチをして人生初のチャレンジが始まりました。

どの道を行くかはチームに任せ、山手線各駅名の前でチームの写真を撮影すればOK。Tシャツも写るよう、道行く人に声をかけて撮影してもらいました。途中で同じゼッケンの参加者に出会うと、ハイタッチをして一緒に写真を撮ることも。外国の方の参加が多く、楽しんでいる様子が伝わってきます。

私たちはゆっくりと歩いて色々と発見しては、おしゃべりしながら進みました。日中は暑かった風が心地よくなったり夕暮れに、ハーフのゴール・目白駅に到着。歩ききることができました！

そして、東京駅に戻ると大勢のボランティアさんが鳴り物と大歓声で出迎えてくれました。私は感動していました。とても嬉しかったです。

参加費はすべて横浜こどもホスピスプロジェクトに寄付されること。もっと効率よく回れるようにルートをよく練って次回も参加しようと楽しみにしています。皆さん、楽しい1日をありがとうございました。



YAMATHON 主催者 Joe Pournovin

5月11日土曜日。参加者1073名。283チーム。29駅。40数キロ。ボランティア220人。寄付総額約360万円。当日を振り返れば華々しい数字が並ぶ。しかしこの数字から、40数キロを歩き切った参加者の汗と苦痛が見えるだろうか。結果の記録、マッサージ、路上での応援などに携わった、ボランティアや関係者ひとりひとりの疲労が見えるだろうか。

写真には1073の笑顔と高く振り上げられた2176の手が見えるだろう。素晴らしい写真だ。しかし、スタート時にこの1073の笑顔と2176の手から立ち上っていた熱気が伝わるだろうか。はたして、この時この場所この1枚の写真に1073の笑顔と2176の手を集めのべく費やされた時間とエネルギーが見えるだろうか。

写真前列には、横浜こどもホスピスプロジェクトの田川尚登さんと飯山さちえさんが写っている。しかし、この二人と、支援を必要としているお子さんとご家族に幸せを届けたいという横浜こどもホスピスプロジェクトのビジョンに対するTOKYO YAMATHONの愛(共感)が伝わるだろうか。

今年のYAMATHONに参加しなかった方々には、見えない・実感できないことがあるだろう。しかし、来年もチャンスはある。TOKYO YAMATHON 10周年記念となる2020年は、こどもホスピスのためにより多くの愛と支援を集めさせて開催する予定だ。是非、参加者またはボランティアとして登録してほしい。必ず、思い出に残ることを約束しよう。

Saturday 11th May. 1073 participants. 283 teams. 29 stations. 40+km. 220 volunteers. (Estimated) 3.6 million JPY fundraised for Yokohama Children's Hospice Project. The figures are impressive. But the figures do not show the sweat and pain of what our participants went through to walk 40+km and finish this charity challenge. Nor do they show the exhaustion of our volunteers recording results, massaging, and cheering, the efforts of each and every participant.

The picture below shows 1073 smiles and 2146 hands up in the air for this photo. Great photo. But you cannot feel the atmosphere of 1073 smiles and 2146 hands created as they waited to start. Nor can you see the amount of time and energy it took to organise an event for 1073 smiles and 2146 hands to be at this one place at one time for this one photo.

At the front of the photo, you can see two very special people from Yokohama Children's Hospice Project – Hisato Tagawa & Sachie Iiyama. You cannot see the love Tokyo Yamathon has for these two people and their vision of bringing happiness for children and families who need it. Nor can you see the love and support Yokohama Children's Hospice Project received from our volunteers and participants on Yamathon Day.

For those of you reading this who didn't participate or volunteer for Tokyo Yamathon, there's a lot you cannot see nor experience. But you will have another chance next year. 2020 will be the 10th anniversary of Tokyo Yamathon and we will be back with more love and more support for this wonderful hospice. Come and join us as a participant or a volunteer and I promise you, it will be one of the best days of your lives.

2018年度事業報告書(2018/4/1～2019/3/31)

①小児緩和ケアに関する実態調査や啓発及び普及活動（支出額：9,616,147円）

ア こどもホスピス啓発イベント

内容：こどもホスピスと小児緩和ケア講演会とコンサート
日程：11月3日、2019年1月26日
人数：34人（従事者）／380人（参加者）

イ 第1回世界こどもホスピスフォーラム

内容：イギリス、オランダ、ドイツなどのこどもホスピスを視察後、関係者を招聘し、国内外のこどもホスピスの取り組みを共有するシンポジウムを開催
日程：2019年2月11日
人数：55人（従事者）／350人（参加者）

ウ こどもホスピス普及活動

内容：小児病棟へのサンタクロース訪問
日程：12月25日
場所：横浜市立大学附属病院小児科
人数：7人（従事者）

エ 実態調査

内容：小児がん患者の遺族を対象としたアンケート調査
場所：神奈川県内
対象：20家族（難病等によりお子さんを亡くされたご家族）
人数：職員2人、横浜市大看護学科調査チーム（従事者）

②小児緩和ケアに関する人材の育成に関する事業（支出額：5,384,237円）

ア 小児緩和ケアに関する研修会（『病児と遊びの研究会』）

内容：小児緩和ケアに関する疾病別の子どもを持つ親の講演と病気や障がいがある子供との遊び方の研修など
日程：6月16日、8月25日、10月20日、12月8日、1月19日
人数：講師2人（x5回）、職員2人、ボランティアスタッフ5人（従事者）／200人（参加者）

イ こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラムの構築

内容：小児緩和ケアを体系的に学ぶカリキュラムを開発し、研修を行う
日程：11月23日～24日、2019年2月9日～10日
人数：講師7人、職員2人、ボランティアスタッフ3人（従事者）／50人（参加者）

ウ 多職種連携勉強会

内容：命を脅かす病気の子どもや家族が直面する課題（障害者手帳など福祉制度、病児学習支援）政策担当者（厚生労働省職員）を呼び、市役所などの行政の窓口担当者と制度利用をする患者家族、医療、介護関係者などと勉強会を開催
日程：9月22日、10月27日、11月18日
人数：講師5人、職員2人、ボランティアスタッフ3人（従事者）／80人（参加者）

③その他、本法人の目的を達成するために必要な事業（支出額：1,598,375円）

ア 小児ホスピス事業計画策定等に関する事業

内容：事業計画等策定
日程：通年
人数：2人（従事者）

2019年度事業予定

①かながわボランタリー活動推進基金21
負担金事業

●第2回こどもホスピス講演会とピアノコンサート
日時：2019年11月23日（土）
場所：はまぎんホール・ヴィアマーレ
講演：細谷亮太（そらぶちキッズキャンプ理事長・横浜こどもホスピスプロジェクト理事）
演奏：斎藤守也（レフレール）

●第2回世界こどもホスピスフォーラムin横浜（シンポジウム）
日時：2020年2月11日（火）
場所：はまぎんホール・ヴィアマーレ

●病児と遊びの研究会（6回シリーズ）
日時：6月9日、7月27日、8月12日（ラポールシアター）、10月20日、12月8日、1月19日
場所：横浜市内会議室・ラポールシアター

●小児がん患者の遺族等を対象とした全国調査

日時：通年

②独立行政法人福祉医療機構助成金事業

●第2回全国こどもホスピスサミットin北海道（シンポジウム）
日時：2019年7月14日（日）
場所：札幌国際ホール

●こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラムの構築
日時：6月22日～23日（横浜）、7月15日（札幌）、10月26日（福岡）、11月17日（仙台）など

●多職種連携勉強会

日時：2回（10月、12月予定）
場所：市内会議室

③自主事業

●小児病棟へのサンタクロース訪問
日時：12月24日（予定）
場所：横浜市立大学附属病院小児科

活動計算書（特定非営利活動に係る事業会計） 2018年4月1日から2019年3月31日まで

科目	金額	合計（円）
I. 経常収益		
1. 受取会費	1,667,000	
2. 受取寄附金	24,345,923	
3. 受取助成金等	11,010,000	
4. 事業収益	518,500	
5. その他収益	197	
経常収益計		37,541,620
II. 経常費用		
1. 事業費	16,598,759	
2. 管理費	5,571,255	
経常費用計		22,170,014

III. 経常外収益		
	0	0
IV. 経常外費用		
税引前当期正味財産増減額		15,371,606
法人税、住民税及び事業税		27
当期正味財産増減額		15,371,579
前期繰越正味財産額		26,769,600
次期繰越正味財産額		42,141,179

ご寄付一覧

(順不同・敬称略) (2018年12月～2019年6月末)

ご支援、ありがとうございました

【会費・寄付によるご支援者】

日本基督教団田浦教会婦人会／三石 尚武／佐藤 佐栄子／横須賀 千賀子／手しごとサポート／小瀬村 芳明／鈴木 正雄／鈴木 星子／森田 知子／有賀 実男／久保田 綾／武舎澄江／南区学校保健大会募金／大平 美保子／オカノアリヤキ／北原 由佳／石川 智也／マツムラ リョウ／牛田 毬子／浦川 修輔／岡部 桂代／奥村 美由／恩田 美裕紀／河合 美帆／澤田 綾／コシダ タカオ／小山 祐一／新谷 美子／高橋 邦子／似鳥 二美子／平野 長子／堀内 陽子／松田 正治／右松 晶子／向山 陽子／村井 一夫／犬井 三紀代／稻波 裕子／井上 幸代／芋川 富美子／大越 公子／大島 征子／大谷 佳菜江／大道 弘直／小野寺 百合子／河村 ふゆき／木下 嘉昭／嶋貴 博子／高橋 和子／田村 美代子／チバ ヒコロ／野尻 壽子／前島 満佐子／間宮 裕子／安島 潤子／山口 みどり／山本 史子／石川 博子／岩本 烈子／勝又 みどり／高橋 直子／小山 桂子／齋藤 優美子／坪田 義孝／寺内 孝／服部 陽児／平井 武子／古澤 光恵／前川 真由美／湯浅 弘子／「しろさんのレモネードやさん」製作委員会／五十嵐 敏道／石井 文子／石山 南子／塙治 由美子／大友 浩／小笠原 早苗／小野寺 洋子／岸野 ハツ子／木村 康人／笹山 夏佐子／杉澤 夏子／杉山 真紀／田中 絵美／田中 佳子／露木 よね子／成富 育子／山口 幸也／山谷 和明／大住 猛雄／大住 多紀子／あかね基金／阿部 佳代／オノ ツトム／金子 サキ／小出 近藤 紀子／島田 和子／鈴木 美穂／田岡 恵美子／竹内 美弥子／竹中 公子／千葉 豊／根岸 奉枝／野村 忠男／洞田 靖子／真壁 浩子／松村 由喜子／渡辺 いく子／渡辺 多賀子／今野 弘子／鳥澤 竹彦／長崎 智子／伊藤 理智／大森 愛未／丸尾 美穂／みんなのレモネードの会／荒木 さよ／池田 仁子／池田 有子／市原 早苗／岸 益枝／小磯 敬子／サトウ マリ／島ひとみ／杉本 郁子／富田 弘／塙 美智代／平間 和彦／古性 操／ミサワ アヤノ／持田 加容子／山下 裕章／山田 由子／学校法人大塚平安学園ドレーべー記念幼稚園／黒木 敬／子育地蔵尊／小山 千絵／柴山 操／ヒライ マチコ／森岡 ミチ子／一休堂／川上 詩子／島津 幸弘／杉岡 正啓／中村 昌裕／原 理恵子／平川 久美子／藤原 成子／吉川 展生／吉川 满雄／遠藤 雅右／北村 憲雄／根本建設株式会社／山手 敦子／吉井 祥博／フジイ ヤストモ／吉田 秀一郎／上野 裕大／川田 千代子／小日向 雅子／スエミツ アヤコ／中洲 啓子／野口 由美子／服部 恵津子／虹の会／人見 敦子／市川 久美子／沖野 和正／株式会社コロナ／川崎 優子／クロタキ チヒロ／谷 紫寿／タマラ トモヒサ／水口 幸治／勝烈庵／清久 潤子／星 江里子／木村ニコマックス株式会社／姫嶋 征隆／雨宮 博美／本多 昌平／ホンダカーズ神奈川中株式会社／二ノ宮 早苗／イワタ アンリ／イワタ ユウナ／栗山 卓峰／医療法人横浜柏堤会／株式会社ありあけ／丸忠建工株式会社／山下 真希／昭和建設株式会社／田中 聰子／益子 朗子／山崎 正紀／柳田 みちは／尾崎 茂子／津嶋功／株式会社ローズホテルズ・インターナショナル／ゾーホーヤパン株式会社／永田 明子／福田 清／水木 礼子／山城 洋子／タハラ マユ／稻部 澄子／亀井 洋子／特定非営利活動法人難病治療開発を支援する会／福村 裕子／米山 美代子／小出 浩子／土志田建設株式会社／株式会社アンビスホールディングス／東條 富美子／有田 真貴子／公益財團法人原田積善会／株式会社せんざん／副島 智子／後藤 富紗子／坂本 良子／椋棒 弘子／金井 玲子／深田 真／株式会社ジョビア／堀内 克子／津田 敏夫／長谷川 雅代／松崎 舞子／亀井 ゆかり／永井 順子／藤田 俊徳／赤池 文子／阿部 起佐子／荒井 環／伊澤 三智子／市川 喜久江／稻田 昭弘／井上 伸子／大藤 佳子／柏村 瑞枝／川島 泰子／久保田 一男／久保田 鈴美／古賀 真美／重内 博美／城 博俊／曾我 美紗子／田嶋 和則／田島 玄太郎／津野 晶子／手島 美由紀／豊原 昭子／林 厚志／弘誓院／前田 奈緒／マクドナルド美樹／松浦 明美／毛利 環／本吉 恵美子／山地 理恵／新宅 美樹／首藤 純一／高尾 節子／鍋谷 まこと／柳澤 隆昭／中山 えり子／株式会社ファンケル もっと何かできるはず

基金／志澤 直樹／守谷 明美／今崎 容子／黒木 裕子／本多 幸子／伴内 正樹／ウチダエスコ株式会社／輝きの会／古谷 美智子／NPO法人Umiのいえ／燧 淳子／阿部 ひろみ／岡田 英明／橋本 裕一／株式会社メモワール／金子 知之／中村 文江／松原 康司／大洋建設株式会社／八住 智明／平田 隆子／後藤 浩之／読売センター関内吉野町／絵手紙シールペたんねッ人／金子 英生／鈴木 誠二郎／鈴木 知一／関根 貢／富田 淳／青木実子／株式会社サカクラ／カワカミカズヒコ／三菱地所株式会社／山中 清／押田 豊／大澤 アイ子／小竹 真紀子／柴田 泰代／清水 真紀／山崎 ユカ／高城 稔子／那須 雅之／花輪 泰輔／久場 樹／平野 ひかる／森村学園中高等部／細谷 亮太／櫻井 時子／瀬戸 恒彦／横浜西ロータリークラブ／横浜ビル建材株式会社／山本 豊境木地蔵堂／池川 明／横山 新一郎／及川 浩次郎／黒田 光子／中村 武美／桃澤 由博／石井 理子／山岸 千彰／山崎 稔／吉田 道雄／トルコキヨウの会／株式会社阿都鋼業／リージェン株式会社／株式会社一品香／宗教法人弘明寺／小林 猛／小林 千賀子／井上 有紀子／門田 由美／齊藤 恵美子／高木 伸幸／松村 清美／リヨーコーホーム株式会社／クロダ レン／いそはた接骨院／原田 由美子／田辺三菱製薬株／ピティックスジャパン株式会社／株式会社MORIAI／秋山 実／公益社団法人かながわ福祉サービス振興会／味館トライアングル／NPO法人リュバン／石井 由紀子／伊藤 久／細野 正道／株式会社シマンテック／中島 幸二／佐々木 泰明／長谷川 登三男／ヒルトン東京／吉田 孝子／延吉 淳子／森智恵子／佐藤 麻衣子／赤西 三千子／東急リバブル株式会社／株式会社オーリーワン21／茨木 良枝／甲田 留美／千田 博仲／水間 みはる／宗教法人大周寺／間瀬 裕子／吉田 賢一／吉田 聰／城戸 綾子／青山 正子／山村 宣夫／寺村 昌子／花屋こはな／鈴木 ルミ／クレディ・イスイス／旭川大学短期大学部佐藤ゼミナール一同／株式会社ティー・エム・シー／須貝 正勝／JWE ジャパンレスリングエンターテイメント／成田 英次／稲葉 孝恵／松下 信／松下 景子／尾本 和彦／吉武 敦／オフィスフォーユー／脇本 正和／姫嶋 尚／KDDI 株式会社／伊藤 玉穂

【よこはま夢ファンド】

(横浜市が掲載を確認された方。2019年2月末まで)
株式会社ヨコレイ／西條 達／木村 勇人／上仲 哲郎／中戸川 直史／安藤 竜一／佐野 正子／西堀 健／馬淵建設株式会社／嶋田 年比子／山本 昭彦／久保田 龍士

【イベント協賛】

根本建設株式会社／株式会社四元工美／勝烈庵／株式会社横濱屋／ニコマックス株式会社／ひまわり交通株式会社／株式会社徳建／株式会社安藤建設／ホンダカーズ神奈川中株式会社／丸忠建工株式会社／株式会社ありあけ／医療法人横浜柏堤会／田辺三菱製薬株式会社／昭和建設株式会社／横浜サルビア法律事務所／株式会社ローズホテルズ・インターナショナル／ゾーホーヤパン株式会社／土志田建設株式会社／株式会社アンビスホールディングス／株式会社せんざん／株式会社ジョビア／ウチダエスコ株式会社／株式会社メモワール／大洋建設株式会社／株式会社ヒューマンソースみらい／読売センター関内吉野町／株式会社スマイルワン／株式会社サカクラ／三菱地所株式会社／株式会社キクシマ／横浜ビル建材株式会社／三晃商事株式会社／株式会社みつやま／みんなのレモネードの会／株式会社コロナ

【募金箱設置】

ベーカリーハウス アオキ／スマイルガーデン／Bravissimo／ビーンズファーム／壮健堂治療室／ヘーサロンタカキ／山本助産院／パブ ドレミ／花屋こはな／奥石且子事務所／スマイル食堂／角田宏子事務所／八景写真館／八木薬局／BAR LUZ／ヨコハマホップ／たわわや／大和・綾瀬理容組合／菓匠 栗山／境木地蔵尊

小児ホスピス建設のための支援として認定 NPO 法人スマイルオプキッズにお振込みいただいた場合：

寄付金は当法人のために確保されておりますが、個人情報保護の観点から当法人には寄付者氏名の開示がなされません。したがって、こちらにお名前を掲載することができないことをご了承願います。

「第2回子どものいのちと向き合う」講演会

昨年11月に続き、1月26日に講演会を開催しました。「こどもホスピス」という言葉は暗いイメージを持たれがちですが、私たちの目指すのは温かく家庭的で、生きている「今」という時間を豊かにする場所。この講演会シリーズは、この世に生を受けた意味や命の大切さ、命と向き合う子どもと家族を社会でどのように支えていくかを一緒に考える機会となっています。

子どもの誕生を通して、日々、いのちの神秘を見つめている池川明先生と、小児脳腫瘍など小児がんをご専門とされ、深い愛情で子どもの命を支える柳澤隆昭先生のお話には、参加者の多くからコメントが寄せられました。

講演会の内容：

- (1) 「ドイツ・オランダ・イギリスのこどもホスピスを視察して」(代表理事・田川尚登)
- (2) 「こどもはお母さんを選んで生まれてくる」(産科医・池川明先生)
- (3) 「生きる力抱きしめてー日本そしてイギリスから」(小児科医・柳澤隆昭先生)



池川明先生



柳澤隆昭先生

参加者のコメント

- *病があっても、その前に子どもとして生きる時間を大切に支えられることが、生きる力を呼び覚まさせると信じます。
- *命の尊さとそれを見つめる携わる人の心もまた、尊いものだと思う。
- *全国でホスピスの考え方が浸透し多くの場所で設立される時代になって欲しい。
- *子どもに関する講演は色々聞いてきたが、ホスピス、医療に関わる子どものこと、生命のことを知るきっかけになり、先生方の講演を聞けて良かった。
ほか

応援アンバサダーのご紹介



みなさん、こんにちわ。虹色の絵描きニイナ
阿部です。

この度は、光栄にも「応援アンバサダー第2号」に任命いただき、心より感謝申し上げます。

現在私は杜の都・仙台市に在住ですが、横浜は昔からとても縁が深く、第二の故郷のような場所です。実は私の家族、そして私自身も難病や癌の体験があります。なので、当事者としての気持ちも踏まえ、絵の活動を通して、太陽の陽だまりみたいに暖かな、虹色のホスピタルペインターを目指して、これからも応援させて頂きますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

ニイナ阿部

1988年渡米、UCLA (University of California Los Angeles校) グラフィックデザイン科専攻、1992年武蔵野美術短期大学グラフィックデザイン科卒業、その後 こども絵画造形教室講師を経て、現在は虹色の癒しの絵描きとして活動中。絵本「マナの実」出版@新風舎(2006年)、フラダンス・ハワイ専門誌「Hula lea (フラレア)」@文踊社(2007年~2017年)挿絵を連載。



皆様、はじめましてプロレスラーのKAIです。奇跡的な縁から田川代表と出会い、横浜こどもホスピスプロジェクトに共鳴し、過去2回横浜こどもホスピスチャリティープロレス大会を開催させて頂きました。誠に感謝致します。こどもホスピスは病気と闘っている子供、そして家族に沢山の思い出を作り笑顔になって貰う施設を目指しているとお聞きした時、まさにこれはプロレスの番だ!と思い、お願いをしました。

KAI (カイ)

1983年5月20日生まれ。日本のプロレスラー。本名は、境敦史(さかいあつし)。神奈川県横浜市出身。横浜市立桜丘高等学校卒業。

プロレスも独りじゃ絶対に出来ないです。様々な方の協力で成り立っています。これからもプロレスを通じて何かしらの形で関わらせて頂き、沢山の思い出を作り笑顔になって貰いたいと思っております!

支援のおねがい

【賛助会員(サポート会員)になって継続的に支援する】

①個人：年間1口5,000円から(1口以上) / ②法人・団体：年間1口10,000円から(1口以上)

【寄付で支援する】自由な金額、自由な回数でご寄付をいただいております。

【振込先】

ゆうちょ銀行振替口座：00260-9-104518

口座名義：NPO法人横浜こどもホスピスプロジェクト

※ ゆうちょ銀行以外の他の金融機関からの振込の場合は、

【ゆうちょ銀行】店名029(ゼロニキュウ)、預金種目：当座、口座番号：0104518

口座名義：NPO法人横浜こどもホスピスプロジェクト

※ 寄付等で税額控除を希望される方は、横浜市市民活動推進基金「よこはま夢ファンド」制度をご活用ください。お申込み手続きは「よこはま夢ファンド」のウェブサイトでも可能ですが、ご相談いただければ、申し込み用紙を郵送させていただきます。

※ 遺贈の相談も承っております。

会報発行者：特定非営利活動法人横浜こどもホスピスプロジェクト

〒231-0003 神奈川県横浜市中区北仲通3-33 関内フューチャーセンター164

TEL: 045-274-8686

FAX: 045-550-3459 e-mail: contact@childrenshospice.yokohama http://childrenshospice.yokohama/